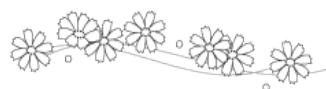


かわっていくこと



かわっていくことは、こわくない

わくわくしたいな。

明日の自分に。

折原みと



も く じ

- | | |
|------------------|--------|
| ・第13回 ES総会 報告 | p. 2~3 |
| ・CAP委員会より | p. 4 |
| ・オレンジりぼんより | p. 5~7 |
| ・その他の活動報告 | p. 8~9 |
| ・メンバーのエッセイ | p. 10 |
| ・CAP 活動報告&助成金報告 | p. 11 |
| ・事務局からのインフォメーション | 裏表紙 |



第13回 ES総会 あいさつ

一年一年積み重ねて今日、NPO 法人として発足し13回目の総会を迎えることになりました。

子どもの事件や問題が社会問題として表面化している今日、私たちがCAP（子どもへの暴力防止）プログラムを堺市のすべての子どもたちに届けたい、と動き出して18年経ちました。

一回一回のワークショップ（参加型学習）の実践の積み上げの中で、子どもたちにどう向き合っていたらいいのか？私たちにできるベストな方法は何か？子どものエンパワメントにつながっているのか？何度も繰り返しメンバーで啓発研修し、振り返り・・・そして今も子どもたちと向き合いを続けています。コミュニティーベースで、できることは何か？

学校で教師の役割、家で養育者の役割、そして地域での役割が、子ども一人ひとりの成育に不可欠であることを実感します。

今日の総会では、深み、幅なども含め、各事業の一年の集大成と次のステップにつなげていただきたくための方針を確認していきたいと思います。

この総会の開催に至る感謝をもって、皆さまへのあいさつの言葉に代えさせていただきます。

北野真由美



総会イベント

「こどもの中に生きるコルチャック先生」



今年度、えんばわめんと堺／ESの総会イベントでは、「こどもの里」（大阪市西成区）から、子どもたちがドイツ・ポーランド視察で体験したことをもとにした劇を、演じに来てくれました。

今から約100年前に子どもの権利は当然のことであり、子どもは尊ばれるべきかけがえのないひとりの人間で、「子どもは今を生きるものであって、将来を生きるものではない」と考えたのがヤヌシュ・コルチャック先生でした。

その精神が、「子ども権利条約」となりました。今回ヤヌシュ・コルチャック先生の生涯と子どもの権利条約に込められた思い、そして戦争の愚かさを、子どもたちが一生懸命の演技で私たちに伝えてくれていました。



日々是自己研鑽

今を生き、未来を築く人たちへCAPプログラムを届けていきたい！そんな思いを抱きながら、まるで長距離ランナーのように走り続けている。15年を超える時を、道のりを・・・私たちのゴールはどこにあるのだろうか。

「小学生の時に、安心・自信・自由をうけました。」と、時を経て保護者の方や担任の先生との再会。活動が続けてこられたのは、教育関係者や地域の方々、自分たちの子どもに届けてほしいという保護者の支援があつてのことだ。

その為にも、メンバー間の振り返り、研修は必須である。外部講師を招いたり、実際に起きた事を再度検証しながら、メンバー間で議論を重ねる。自分を問われ苦悩することもある。決してひとりよがりな満足を得るのではなく、子どもの人権を視点に多面時な角度から研修を定期的を開催する。

「一人ひとりとはかけがえない大切な存在」

この姿勢を愚直なまでに貫くことが、子どもたちとの信頼関係を培う礎となっているのだろう。

市民性教育の一端を担わしてもらっているという重責の中で、堺CAPのメンバーは今日も明日も、そして体の動く限り、CAPを届け続けたいという思いとともに、自己研鑽を欠かすことはないだろう。

この先も、未来に向って命のバトンをつなげていこう。

「子どもたちは、安心して自信を持って自由な気持ちで生きてく権利があるんだよ。」と、出会いを重ね走り続けていこう。

長岡さちこ





オレンジぽん

★オレンジリボンは、ESスタッフと学生ボランティアさんとで、ワークショップを実施しています。現在、毎月1回のこころクラブにも、2名の学生ボランティアさんに協力してもらっています。私たちにとって、また参加者にとって、とても貴重な存在です。

こころクラブさんにボランティアという形で参加させていただき、学んだことや感じたことなどを拙い文章ながら綴らせていただきます。

先に自身のことを語らせていただきますと、私は現在大学にて特別支援を専攻する学生です。特別支援学校に務める教師が母にいます。母の話を聞き、特別支援教諭という職業に憧れ、その職に就けたらと考えています。私に、支援を要する方々と関わるきっかけをくれたのも母でした。小学生の頃には、クラスに特別支援学級へ通級している女の子と同じクラスになることが多く、その子と関わるうちでも特別支援という分野への興味が強くなりました。

私がこころクラブさんへボランティアに行かせていただいて驚いたことは、支援を要する方本人だけでなく、その兄弟にまで支援の幅を広げていることでした。特別支援児者さんと関わるボランティアと聞き、ご本人たちの支援のお手伝いをするものだばかり思っていたので、驚いたのを今でも覚えています。兄弟の方々にまで支援の幅を広げている理由を聞いて、私はまだまだ未熟なのだと知りました。今まで特別支援学級へ通う兄弟を持つ方と関わったこともあったのに、お話を聞くまで全く理由がわからなかったのです。私はこれから学校で色々な事を学ぶでしょう。しかし、おそらく支援を要する方を家族に持つ方のことは学ばないことです。ボランティアに行かせてもらわなければ、きっと私は何も知らずにいた事と思います。

支援を要する方々にも関わる機会をいただいたこともあります。ただ、いつもの場所にいつもとは違う人がいて驚いたのか、精神的に少し距離が有りました。しかし、二度目に参加させていただいたときは一緒に新聞を破いたり、絵を描くのを見せてもらったり、少し近づけたような気がします。こころクラブさんの活動では参加している全員で行う活動の時間と好きなことをできる時間が有ります。全員で行う活動は好きな食べ物を前に出て発表したり、クッションを隣の人に回して一周させたり、内容は様々です。



ただ一定時間お預かりするだけでなく、課題を設定し、それにその場にいる全員で参加する。そのことにも驚いた覚えがあります。課題を設定する際も、難易度を考え、時には自身で体験して活動内容を決定します。この手順もこころクラブさんに参加させていただいて学んだことです。

まだまだ知識の浅い私ではありますが、これから努力を重ね、支援を要する方々に必要とされる人間を目指して、日々精進して参ります。

(By あっか)

～9月こころクラブのワークショップにて～



竹を半分に割ったものを手に持って、ゴルフボールをゴロゴロ…と、隣の人に渡す、また隣へ、もっと近づこう！準備を早めに！竹同士繋げてから受取ろう！などなど。

ゴルフボールのあとはビー玉に挑戦！！

みんな必死！！特にスタッフが必死(^^;;



参加者の提案で今度は竹ふみ&竹ふみ渡り～
「気持ちいい！」「いたい！」

感じ方は人それぞれ・・・

来月しようね～(^_~)

※竹はカナダの多様性教育の勉強会の時に、NPO 法人「ハーモニー・ムーブメント (Harmony Movement)」のケイトリンさんと通訳の藤川さんから頂きました。



<スタッフ募集>

やってみたいと思う
方、E S事務所まで
ご連絡ください！

—こころクラブワークショップ—

日時：毎月第3日曜日（AM10時～12時）

第1部 10:00～10:55

第2部 11:00～11:55

場所：堺市立青少年の家

対象：第1部 ダウン症児者と、そのきょうだい

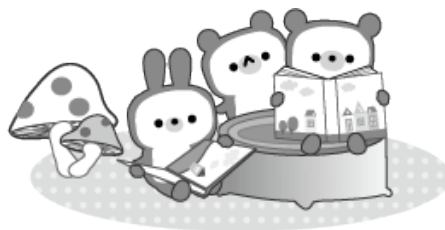
第2部 発達障がいのある子ども、おとな



ローズカーニバル

今年も、5月17日に浜寺公園で開催されたローズカーニバルに参加しました。
フリーマーケットでの売上金および寄付金を利用して、1学期と夏休みに子どもたちへ
ワークショップを届けました。今後も、できるだけ多くの子どもたちにワークショップを
届けたいと思っています。関心のある方は、E S事務所までご連絡ください。

品物を提供して下さった方々、そして当日寄付
および購入をして下さった方々、ありがとうございました。
この場をお借りして、お礼申し上げます。



RE:ねっと 学習会

「あなたにとっての‘ふつうの子ども’とは」

～「あたりまえ」はホントに「あたりまえ」？～

8月8日 市民交流センターなにわ



中学生に届ける「RE:プログラム いじめをちょっとでもなくしたいプログラム」の学習会が夏休みにあり、ESからも8名が参加しました。プログラムを提供する側のわたし達も、生きてきた中で知らない間に身につけてきた「子どもに対しての見方」「接し方のくせ」などがあります。それを子どもの人権を基軸に一緒に考えました。

「なぜ自分はその言動・状況が気になるのか？」ワークショップで子どもの前に立つとき、自分の経験から身についた価値観や背景がとっさの言葉や動きに影響します。同じ活動をしている仲間でも、たった一つの言葉の意味やとらえ方は驚くほど多様でした。それぞれの「子ども観」を見直すところでは、しつけとおしつけ・ルールについて考えたり、3対1の少数派になり社会で容認されている上から目線の子どもの観を口々に言い募られたりする体験をしました。

この学習会ではそれぞれがアクティビティで体験した気持ち・言動をふり返り、相互作用が生まれ、『これぞワークショップ！』という感じでした。また、ファシリテーターが参加者を信頼（その感性・内省力・他者と向き合う力など）しており、‘場’への信頼を強く感じました。それは参加者に伝わります。

「正しい」ことを「教える」時はファシリテーターの言葉が増えます。それは正論を言いたいときは自分を開いて相手に耳を傾けていないことがありがちなのと似ています。出会う子どもたちを対等な存在として、その力を心の底から信じること。二学期からの出会いに向けて心に刻みました。楽しく「あたま・こころ・からだ」を使って、自分を開いて学ぶ貴重な時間でした。

泉 直美



カナダの多様性教育

9月1日、NPO法人「HARMONY MOVEMENT」のケイトリンさんによるカナダの多様性教育の講座を受けました。

夜7時からの講座にも関わらず、有志の方で準備してくださった会議室は満員！

ウォーミングアップとして、30cmくらいの半分に割った竹を全員が持って、竹の中にスーパーボールを転がして、落とさないように次の人に渡すゲーム。落としてしまったら、また最初からやり直し。竹を思い切り傾げる人、速いスピードでボールを転がす人等、これも多様性の学びなんかな～と思いながらも、なかなかゴールするのは難しくて、盛り上がりました。このゲーム、堺での色々なワークショップでも使える☆と、メンバーが、譲り受けて持ち帰ってくれました。(ちなみに、ケイトリンさんはカナダに持ち帰る訳にもいかないし、竹の処分に困るので、譲り手を探していたとのこと。早速、月1回のオレンジりぼんの「こころクラブ」のワークショップで活用させてもらいました。どんな反応を示すかな～の心配もよそに、子どもたちは楽しんでくれました。)

自身が持つ偏見について問い、ネガティブなメッセージを出していないかを自分で確認すること、子どもと自分の会話、子どもたち同士の会話の中を気づきのチャンスとすることが、私たちがすべきこと。

そして、「多様性」について、楽しんで活動に取り組むことが大切だと改めて感じました。

同時通訳付きとはいえ、全部英語での講座、意味が分かるかな？と思いながらの参加でしたが、ケイトリンさんの思いと私たちの活動が共通している面や、通訳の方も同じ思いで伝えて下さっていることで、英語がスッと入ってくる瞬間がありました。不思議な感覚だけど、これが思いは通じるということなのかも。

しおちゃん



『体罰をみんなで考えるネットワーク』になぜ参加するのか

この会は 2012 年に起きた桜宮高校バスケットボール部主将が顧問からの暴力・暴言を苦に自殺に追い込まれた、悲しい事件をきっかけに発足しました。子どもの人権や虐待防止などに取り組む団体と、教育学・心理学・児童福祉・社会学などの領域の研究者とが結集する形で、まず前身の「反体罰 NPO・研究者連絡会」ができ、2014 年には関西を中心にさらに集会を重ね、FB などで広く呼びかけ、集まったメンバーにて「体罰をみんなで考えるネットワーク」と改名し再スタートすることになりました。ネットワーク代表の京都精華大学教授・住友剛さんはこの団体の意義を「体罰」の問題を軸におとなから子どもたちへの暴力の問題について一緒に考えていけるように、保護者や学生、研究者や NPO、行政、学校関係者、マスメディア等、さまざまな立場の方たちをゆるやかに「つなぐ」役割だといわれています。

私たち「えんばわめんと堺」もこの意義に賛同し、会員になりました。私自身も前段の事件が起きた大阪にいて、自分は何をするべきなのか？子どもの人権に関わる活動をしている NPO にいてどんな形で声を上げるべきか、悩んでいました。心の底に消えない事件の記憶を抱いたまま、日々の活動は続き、話ができる講座でのみ事件を例に出し、再度悲しい子どもの事件が起きないように私たち大人は何ができるのかを考えましょう・・・と伝えてきました。

振り返ると、自分の学生時代の部活動では、めっちゃめっちゃな体罰が行われていました。バスケット部で強かった。他校の生徒からも、うちの学校に練習試合に来ると、顧問が怒鳴り散らし、頭を叩き、灰皿を投つける行為が怖かった。その意味で対戦するのがイヤな学校だった。と聞くほど、体罰が日常茶飯事でした。学生時代の私もイヤだとは思っていたはず。そして何かおかしいと感じながらも、強い部活は先輩や顧問が怖くて当たり前。愛情だと思い込もうとしていたと思います。1 人だけ呼ばれて怒られ、その後にお前のことを思ってや、どうでもいい生徒にはそこまで言わない。と言葉をかけられ、最後には先生も生徒だった私も涙を流し、怒られるのも大事に思ってもらえているからだと錯覚していました。

大人になり、CAP（暴力防止プログラム）と出会い養成講座にて、自分の子ども期を振り返るまで、青春の苦く楽しい 1 ページに刻みこまれていた部活の記憶。実は、あれは顧問であり教師という力で、私たち部員を体罰の恐怖と、愛情と見せかけたやさしい言葉とのコントロールで、都合のいいように支配していたのだとやっと気づきました。





その時のショックは相当で、大切にされていなかったのだと青春時代の楽しかった思い出も何もかも全てが灰色に塗り消されたような感じで、落胆しました。

時代が変わって、私の子どもが所属していたクラブチームや部活でも、まだ体罰もあり、監督の精神的ないじめや支配（人格を否定する、子どもの品位を傷つける発言・弱いものは意見を言うな）が見えました。自分だったら監督のやり方に意見をいうな。と思い伝えましたが、子どもも勿論、関わっている保護者もコーチも見てみぬふり、監督のやり方だから口出しできない。というような雰囲気。少し話を向けてみても、愚痴で終わったり、そんな甘い考え方だから・・・と反対に言われたり。力で支配する監督・顧問も問題だが、それくらい仕方ないこと、自分だけイヤとは言えない。という体罰に寛容な社会的風土が一番の問題だと思いました。この会に参加し体罰問題は社会全体で考えなければいけない子どもの人権問題だ、と広く訴えていきたいと思います。

昔は体罰もある程度ならよかった、信頼関係があれば大丈夫だ。と思い込んでいる部分はありませんか？7月26日夏の集いで高知大学准教授の加藤誠之さんから、学校現場で今も体罰は起きているものの、我が国の学校歴史上、体罰が認められていた時期はない。1879年公布された第一教育令にも体罰の禁止が明示されています。「凡学校ニ於テハ生徒ニ体罰殴チ或ハ縛スルノ類ヲ加フヘカラス」と教えて頂きました。

- ・体罰は生徒に暴力を肯定する態度を教え、いじめの温床となる。
- ・体罰は教師が安全な立場に立った上で、反撃できない児童生徒に一方的な暴力をふるまう卑劣な行為である。
- ・体罰を始めとする力の指導、**紀律重視**の指導は際限なくエスカレートしがちである。

今も体罰や暴力に怯えながら、学校に行っている子がいます。その子どもたちへ何もアクションを起こさないのは、子どもだった昔の私が許さないな、暴力を肯定していることと同じだなと考え、今後も子どもの人権を守る活動を進め、子どもたちが自分は大切にされていると感じるような子ども時代を過ごせるように社会環境を整えていきたい思いです。

はしもと



CAP 活動報告

2015年4月～8月まで

	子どもワークショップ									おとなワークショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数		
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	1	2	68	0	0	0	0	0	0	1(1)	3(3)
6月	12	27	839	2	4	114	0	0	0	15(14)	125(45)
7月	9	21	678	0	0	0	1	2	45	11(10)	95(35)
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2(0)	72(0)
合計	22	50	1585	2	4	114	1	2	45	29(25)	295(83)

* 助成金報告 * ありがとうございました !

*大阪府福祉基金

障がい児に関わる保護者・地域のおとな・専門職の人への研修&講演会を開催します。

詳しい日程は決まり次第、チラシやホームページ等でお知らせします。



ES インフォメーション

ES のホームページを大幅にリニューアル予定です！！
今までよりも見やすく、わかりやすく、
日々の活動の様子や、感じたことなどを更新していきます。

是非、アクセスしてみてください！

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000 円
(初年度のみ入会金 3,000 円)
賛助会員 1,000 円 (入会金なし)

◎ 更新日は年2回 (1 月 31 日・8 月 31 日)
です。

◎ 会員有効期間は1年です。

郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんばわめんと堺
口座番号 00920-9-182116

〒599-8244 堺市中区上之801番5号
特定非営利活動法人えんばわめんと堺／ES
TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589
E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp

正会員 29名
賛助会員 86名 (97口)
2015年 8月

ESの活動はみなさまからの寄
付、ご支援にささえられており
ます。今後ともよろしくお願い
いたします。



編集後記

今年はお盆を過ぎた頃から涼しくなり始め、秋の訪れが早く感じました。
若い人たちの力を感じた秋でもありました。水害に遭った被災地で復旧作業に奮闘した人、
デモで自分たちの意志を表明し、声を挙げ、行動した人。もう「子ども」年齢ではなくても、
子ども時代の色んな思いが「今」に繋がっているのだと思いました。ワークショップ真っ盛り
の2学期、子どもひとりひとりに力があるんだと、感じてもらえるような関わりをしたいと思います。
これを刷り上げた次の日も、さあ、ワーク♪ (しおちゃん)

